

「ミャンマーに民主主義を 軍事政権に圧力を

ミャンマー留学生からの訴え」

島中学校区9条の会は、7月11日島公民館にて緊急集会「今 ミャンマーはどうなっているか？」を開きました。遠くは名古屋の方を含めて、参加者は40名会場がほぼいっぱいになりました。

ミャンマー情勢の報告者は岐阜大学大学院への留学生のお二人と同大学院の仲澤和馬教授です。

始めに留学生のお二人から、ミャンマー現代史の簡単な説明と、ミャンマー国内の現状について映像を交えて詳しい報告がありました。軍事政権への市民の非暴力抵抗の様子と、それに対する軍と警察による暴力むき出しの弾圧が映されました。救急隊員を銃で殴りつけたり通りがかりのバイクをすれ違いざまに銃撃したりする映像、商店に押し入って商品や売上金を強奪する警察隊の映像には、目を覆いたくなりました。

次に仲澤教授から、ミャンマー社会の様子や日本ミャンマー関係についての補足と支援先などの説明、そして会場からの質疑がありました。

最後に、「ミャンマーの軍事政権への圧力を日本政府に要請」する集会アピールを採択して会を終えました。

貴重なお話がたくさん聞けましたが、中でも私に突き刺さったのは、「みなさんの国は民主主義の国だから、ミャンマーの軍事政権に圧力をかけるよう、政府に声をあげて働きかけてください。」という言葉です。何をするのか私たちは問われています。

島中学校区9条の会 井川敏郎